

平成30年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

事業名		農を活かした産業連携による仕事創出推進事業				担当課		産業環境部農業振興課	
予算額	10,800,000円	決算額	10,746,000円	執行率	99.5%	交付額	5,373,000円	交付決定日	平成30年4月2日(当初) 平成30年8月31日(変更)
地方創生総合戦略との関係性		【基本目標】 安定した雇用を創出するとともに、地域経済を活性化する。							
事業概要		農業と商工業・観光業が連携し、富田林寺内町などの観光資源を活用した市内消費の拡大、新たな販売チャンネルの開拓、農業体験型観光の開発、農業経営の改革の4つを柱に雇用創出のために市内の経済をはじめ地域の活性化を図る。							
実施内容		<p>1) 富田林のえび芋名物化プロジェクト</p> <p>①さらなるえび芋コロッケの生産・消費拡大 魅力発信店舗「富田林コロッケ 寺内町店」の運営、生産者との連携による原材料海老芋の確保と供給の強化、新商品(えび芋チーズコロッケ、えび芋バーガー等)の開発・販売、「インバウンド向け農体験商品の開発と農産物及び加工品輸出を見据えたインフルエンサーファムトリップ事業」への参画(香港でのえび芋コロッケ試食)</p> <p>②えび芋(加工品含む)について、市内外の飲食店等への販路開拓 高規格品の京都市場への出荷試行、西口商店会との連携による名物料理開発、熊野市記念通り商店街振興組合との連携によるコラボ料理試作、(財)高知県地産地消外商公社との連携によるコラボ料理試作</p> <p>③えび芋の普及・PR 低規格えび芋(小さいサイズ)の消費者向け販売、各種イベントでのえび芋コロッケPR販売、近鉄電車内での中吊り広告(えび芋チーズコロッケ新発売キャンペーン)、「富田林コロッケ 寺内町店」オフィシャルフェイスブックページの開設</p> <p>④えび芋生産の農業塾の開催 新たな生産者獲得・育成のための講習会・実地指導</p> <p>⑤えび芋研究会の実施</p> <p>⑥地域商標登録等の取得への取り組み えび芋のブランド化促進をめざした「富田林えびいも」のGI認証(※)の取得検討(※地理的表示保護制度に基づく農林水産省の認定)</p> <p>2) おいで！富田林プロジェクト(体験型観光商品の開発)</p> <p>①観光コンテンツと担い手の発掘 近畿日本ツーリストパッケージ商品「あるく」による寺内町街歩きツアーの催行、市内事業者による「えび芋御膳」の開発と提供</p> <p>3) (仮称)富田林市地域連携株式会社の設立準備プロジェクト</p> <p>①おいで！とんだばやし推進連携協議会の運営 1年後の自立・自走に向けた、より具体的なスキームの検討</p> <p>4) とん活野菜流通・活用プロジェクト(「とん活」は富田林市の活力の略)</p> <p>①全体スキームの調査・検討 生産側の調査、需要側の調査</p> <p>②規格外の地場農産物等の買取りと活用モデル実施 事業者と連携した実験加工</p> <p>③新たな商品開発 上記①および②を踏まえた地場農産物等を活用した加工商品開発・試作等、規格外のえび芋を活用した「えび芋ポタージュスープ粉末」と「えび芋練り天」の試作開発</p>							

平成30年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

担当課所見	<p>平成29年度実施の本事業におけるえび芋コロッケ販売の好調により、えび芋のポテンシャルの高さとマーケット形成への期待を再確認したことから、本年度においてはこの機運をさらに上昇させるべく、限られた予算と人員をえび芋の名物化への取り組みに集中し、えび芋の高付加価値化による一点突破を目指した。</p> <p>平成29年度に新たにえび芋栽培に着手した生産者は、平成30年度には作付けを増加し収穫も期待通りとなった。えび芋の供給先を確保することで生産者が安心して栽培に専念できる安定供給サイクル確立への実証となった。今後の栽培拡大には、さらなるえび芋マーケットの開拓が必要である。</p> <p>KPIの一つ「本事業による関連商品の売上高」についてはえび芋コロッケの販売増加が堅調に推移し、当初の想定を大きく上回る実績を達成した。コロッケを目的地に寺内町を訪れる来訪者の増加やマスコミ等への掲載など、えび芋コロッケを切り口に本市特産品や観光資源の知名度向上が図れた。</p> <p>農業生産者を担い手とした観光コンテンツの開発を企画していたが台風被害により中止せざるを得なかった。これを受け、農業と連携した観光コンテンツについては様々なチャンネルを持つ必要性を痛感し、本市の強みを活かしながら様々な主体が担い手となる仕組みづくりに取り組み、大手旅行代理店との関係性構築を図ることができた。</p> <p>平成30年度では、えび芋コロッケを起爆剤に富田林えび芋の知名度およびニーズが向上し、これに伴う市場見込みを感じ取れるところまでに成長が見られた。この間の課題である「えび芋の安定供給」と「加工過程における洗いや皮むきなどの初期処理」については、令和元年度事業においてえび芋生産者からの買い付けを増やすとともに、初期処理から製品出荷までの加工工程に対応可能な設備を農業公園サバーファーム内加工室に整備し、市場ニーズに対応できる供給体制の充実を図っている。これにより、多様な販路を獲得し安定的な商品供給体制が構築できれば、本事業の目的である農業と他産業との連携深化により生まれる新しい価値による経済活性化を通じた雇用の創出にアプローチできると考える。現在、(仮称)富田林市地域連携株式会社設立とその後の自立・自走に向けて、鋭意、取り組みを進めている。</p>
-------	--

本事業における重要業績評価指数(KPI)				内部評価(※)	実績値から見た今後の方針
	H30年度目標値	H30年度実績値	※【参考】令和2年3月	地方創生に非常に効果的であった	追加・拡充等、更に発展させる
本事業により創出された雇用者数	0人	2人	10人	地方創生に相当程度効果があった	事業内容の見直し(改善)
名物料理提供認定店舗数	5件	2件	18件	地方創生に効果があった	事業の継続
農業体験観光への参加者数	50人	30人	200人	地方創生に効果がなかった	事業の中止
本事業による関連商品の売上高	300千円	6,278千円	2,300千円		予定通り事業を終了

平成30年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

外部有識者の評価	●評価 (※)	地方創生に相当程度効果があった
	●個別意見(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業のゴールは農業を軸に新たな魅力を創造し全国区に育て上げること。2年目はコロケを切り口に前進が見られたと思慮するが、実施主体の自立自走というゴール達成には川上から河口まで、資金繰りを含めた商品・サービスの流れの拡大にさらに取り組まれない。また、今後の事業推進にあたっては、公民連携により民のチカラをさらに活用していただきたい。 ・海老芋の認知度はまだまだ低いため、様々な手法を用いたプロモーション強化を。また、投資に見合った販路について小売りから卸売りへの事業形態転換も含め拡大が必要であり、これに伴い経営責任の明確化の観点からも自立後の担い手の確保と育成も急務である。 ・他の産地（静岡県磐田市や京都府城陽市、京丹後市など）との差別化と富田林えび芋のブランド化促進のためG I 認証の取得が急がれる。 ・個人媒体がトレンドに大きな影響を及ぼす環境が深化している。認知度向上のために市民を巻き込み、市民自らが富田林えび芋を発信する取り組みを進めていただきたい。 ・富田林えび芋の需要喚起が農業はもとより関連する分野でも新たな雇用創出につながると思慮する。本年度事業においてえび芋名物化プロジェクトが昨年度に比して充実した内容となっていることは評価する。 ・えび芋生産の現場で雇用が増加していると思慮するが実態を把握しているのか。本事業の裾野の部分まで数値として見える化しておくことが重要。媒体社としては、実施主体への参画も含め、情報発信強化の一翼を担うことも可能。 ・今後、安売りはブランド低下を引き起こすため厳禁。更なる高付加価値化・高ブランド化に挑戦すべき。観光の観点からは、様々な手法によりえび芋を軸とした農業コンテンツの開発により需要を高めることが富田林版サプライチェーンの確立に資する。確立後にはえび芋の次の素材を検討し、富田林（とりわけ じないまち）主体の商品づくりにより、内発的、持続可能な6次産業型観光まちづくりをめざしたい。

※評価については内閣府が実施する効果検証結果報告の基準を準用。

評価	判断基準
地方創生に非常に効果的であった	実績値が目標値を上回っている場合
地方創生に相当程度効果があった	実績値が目標値の7～8割程度を達成している場合
地方創生に効果があった	実績値が事業開始前よりも改善した場合
地方創生に効果がなかった	実績値が事業開始前を下回った場合